

大温室植物の開花結実記録 (平成20年)

磯部実・平井健一郎・佐上賢治・斉藤淳

大温室は多種類の植物を混植しており、それぞれの植物については温度や日照条件は必ずしも最適なものではなく、特に木本植物については成木になったものでもこれまで開花結実しなかったり、毎年開花結実しない植物も多い。

これらの植物は開園当初から同じ位置へ植栽展示しているものが多いが、一部については日当たりの良い場所への植栽変更や新しく植栽したものもあり、また開花結実しにくい展示植物には環状剥皮や捻枝、開花結実時期のホルモン処理を行うなどしてきた。

今回展示効果が高い植物が初めてまたは数年ぶりに開花・結実したものについて記録した。

1. カエンボク

開園当初から植栽展示している樹高約15mの個体であるが、毎年開花しにくく、安定して開花には結びついていない。今年は4月から5月下旬にかけて約5花序の花が咲き、5月ゴールデンウィークのイベントの空中散歩では観察することができ、人気があった(写真1)。

2. ギョボク

開園当初から植栽展示している樹高約2.5mの個体であるが、昨年の7月に初開花し、今年も7月上旬から数十輪が約1ヶ月間開花した(写真2)。

3. ナンバンサイカチ

開園当初から2本(個体)を植栽展示しており、両個体とも樹高7~8mであるが開花しにくく、約10年前より花芽分化を促すために環状剥皮を行ったところ平成11年に初開花し、今年は3月に環状剥皮を行い夏から秋に多くの花序をつけた。バンダコーナー後方に植栽している個体は7~9月に約10花序、有用植物コーナーに植栽している個体は8~10月に約30花序の花が観察できた(写真3)。

4. ソーセージノキ

平成17年から開花時にジベレリン処理を行って、結実を促進している。昨年は約20個の結実があった。今年の開花は7月8日から8月上旬で、ジベレリン処理を行い10個の結実があった(写真4,5)。昨年の果実は今年の結実と入れ替わるように夏にはほとんどが落下した。

5. サガリバナ

現在サガリバナは、地植えと鉢植えとで約10個体ある。昭和63年から植栽展示している一番大きい個体は、平成7年から多くの開花が見られるようになり、現在樹高約3mに成長しており、夜咲きのため、夜間開園時に開花すれば高い人気につながる。

昨年までは夜間開園前期の8月下旬までにほぼ終わってしまい、9月の夜間開園後期にはほとんど開花させることができなかった。今年は開花最盛期を確実に夜間開園期間中に合わせるため、剪定時期を前年の晩秋に行い(主に間引き剪定)、当年の枝の充実を図り、充実した枝を捻枝することで花芽の分化を促進させた。

今年はこれまでよりも多くの開花で、夜間開園の8月中旬から9月上旬にかけて開花最盛期となった。さらに10月まで開花し、好評であった(写真6)。またこれまで一度も咲かなかった鉢植えの個体も捻枝を行ったところ、数枝だけだったが開花した。

6. オオイタビ

ココヤシの株元にグラウンドカバーとして植栽したものが樹高約10mのココヤシの葉元まで這い上がり、大きく生育して成木となり、今年の秋に初めて果囊をつけた(写真7)。



写真1. カエンボクの花



写真2. ギョボクの花



写真3. ナンバンサイカチの花



写真4. ソーセージノキの花と昨年
の果実



写真5. ソーセージノキの今年
の果実



写真6. サガリバナの花



写真7. オオイタビの果囊